



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3408 号 2016.12.17 発行

障害者虐待 3人死亡 被害者増 3154人 厚労省 27年度調査 「身体的虐待が62%」最多

産経新聞 2016年12月17日

家庭や施設、職場で虐待を受けた障害者が、平成27年度に2439件、3154人（前年度比451人増）に上り、うち3人が死亡したことが16日、厚生労働省の調査で分かった。最低賃金を支払わない事業所についての虐待認定基準が変わったため職場での虐待件数が倍増したが、家族や施設職員などの虐待は横ばい。

調査によると、家族による虐待を受けたのは1615人（前年度比80人減）。虐待の種類（複数回答）は、身体的虐待が62%と最多で、心理的虐待32%、経済的虐待26%と続く。福祉施設職員らによる虐待を受けたのは569人（同44人増）で身体的虐待58%、心理的虐待41%、性的虐待14%。いずれも知的障害者が被害に遭う例が多かった。

死亡した3件はいずれも親が知的障害の40代の子供を死亡させた事案。この他、職場の雇用主や上司から虐待を受けた障害者が970人（同487人増）いた。

調査は24年10月に施行された障害者虐待防止法に基づき実施した。

厚労省は「法が現場に浸透し、虐待が疑われる事例の通報が増えている」と分析したが、件数が減っていないことから「研修などを通じて啓発を続けていきたい」としている。

障害者虐待、15年度 7.1%増 被害者は初の3000人超

日本経済新聞 2016年12月16日

障害者への虐待の疑いで2015年度に全国の自治体などに寄せられた相談・通報のうち、虐待に当たると判断された件数が2439件に上ったことが16日、厚生労働省の調査でわかった。職場での虐待が増加し、前年度比で7.1%増加した。被害に遭った障害者は3154人と初めて3千人を超え、このうち3人が死亡していた。

障害者への虐待が増えた原因として、職場での虐待の対象範囲を広げたことが影響しているが、厚労省は「2012年施行の障害者虐待防止法で発見者の通報を義務付けたことで、隠れていた虐待が表に出るようになってきた」と分析する。

障害者への虐待で最も多いのは父母や兄弟姉妹など「養護者」による虐待。1593件で被害者は1615人に上る。虐待行為（複数回答）をみると、暴力をふるうといった「身体的虐待」が993件で最多だった。

障害者福祉施設の職員らによる虐待は339件で被害者は569人。虐待が起きた要因を複数回答で聞いたところ、「介護技術などに関する問題」が183件、「虐待を行った職員の性格や資質の問題」が167件の順だった。

各都道府県の労働局が、職場の雇用主や上司による虐待があったと判断したのは507件。被害者は970人だった。

児童虐待、警察が積極保護 上半期、保護人数の約7割に 伊藤和也

朝日新聞 2016年12月17日

虐待を受けているとして警察が自らの判断で積極的に子どもを保護する例が増えている。今年上半期（1～6月）に保護したのは1063人。児童相談所長の委託を受けて行う「一時保護」と合わせた全保護人数の約7割を占める。深刻な被害が後を絶たない中、現場の警察官が子どもの安全確保を最優先に対応していることが背景にある。

一時保護は児童福祉法で児相所長らにしか認められていないため、警察は通報などを受けて虐待を確認しても、児相に連絡して所長の委託を受ける必要がある。夜間や休日では保護するまで5時間ほどかかることもあるという。

そこで、緊急性や重大性が高いと判断した場合などには、「応急の救護」が必要な人などの保護を警察官に義務づけた警察官職務執行法の規定を適用。自主的な判断で子どもを保護し、安全を確保した上で、保護が原則許される24時間以内に児相につないでいる。

全盲記者・岩下恭士のユニバーサロン 放送でも障壁なくす対応を /東京

毎日新聞 2016年12月17日

今年4月施行された障害者差別解消法は、誰もが平等に情報にアクセスできることを求めている。テレビ番組も字幕や手話、音声解説など視聴覚障害者向けの対応が必要だ。このほど、米国でのテレビ番組音声解説制作の第一人者が来日し、放送アクセシビリティを考えるシンポジウムが東京と大阪で開かれた。

シンポは障害者放送協議会と日本盲人福祉委員会の主催で開かれ、放送事業者や障害者団体関係者らが参加した。東京でのシンポジウムでは、全米映像字幕協会音声解説メディア部長でアメリカ盲人協議会（ACB）音声解説プロジェクト部長も務めるジョエル・スナイダーさん（62）が「米国における放送アクセシビリティの取り組みの現状と今後の課題」と題して講演した。

障害年金の仕組み学ぶ 家族会が研修会 三木

神戸新聞 2016年12月17日

精神障害者の障害年金について講演する青木聖久さん＝三木市立教育センター



精神障害者の障害年金について学ぶ研修会が16日、兵庫県三木市福井の教育センターで開かれた。北播磨と丹波地域の当事者や家族、支援者ら約80人を前に、日本福祉大（愛知県）の青木聖久（きよひさ）教授（精神保健福祉士）が講演した。

兵庫県精神福祉家族会連合会が主催し、三木市の家族会「ほのぼの会」が担当した。

青木さんは、精神障害者の68%が年収100万円未満（生活保護費を除く）とする東京都の調査結果を紹介。所得の減少を補う制度が障害年金だが、受給できていない人が多いと解説した。

障害年金の認定基準について「働くと支給が止まるとの風評があるが、日常生活の状況が認定基準で、働いて止まるということはない」と強調。都道府県ごとに不支給や支給停止の審査結果に違いがあったが、今年9月に客観的な国の指標（ガイドライン）が整備されたと述べ、「障害年金を申請する際にはエピソードを書き記しておくことが大切」と呼び掛けた。（大島光貴）

「副主任」設け保育士昇給 月4万円増 来年度から 共同通信 2016年12月17日

人手不足が深刻な保育士の確保に向け、政府が来年度から実施する処遇改善策が17日、判明した。おおむね7年以上働いて技能を積んだ職員向けに「副主任保育士」と「専門リ

ーダー」の中堅役職を設け、賃金を月4万円上乘せする。国や地方自治体から運営費補助を受ける私立認可保育所の職員の3分の1を対象とする方向で最終調整している。

月4万円の賃上げは、今年4月時点で2万3553人に上る待機児童を解消するため、6月閣議決定の1億総活躍プランに明記されていた。政府は来年度予算案の目玉の一つに位置付ける。処遇改善策全体で、国と地方を合わせて公費約1100億円を充てる。

子どもの事故防止にAI活用検討 政府、膨大データ分析 共同通信 2016年12月17日

政府は17日までに、子どもや高齢者らが死亡したりけがをしたりした消費者事故の情報を、人工知能(AI)を使って分析する手法の導入に向けた検討に入った。消費者庁などに寄せられた膨大な量の事故情報を「ビッグデータ」として活用し、有効な再発防止策や注意喚起、製品改良などにつなげたい考えだ。

政府が事故情報の分析にAIを取り入れる試みは初めて。内閣府消費者委員会が専門家らを交えて議論をスタートさせた。年明けから関係機関のヒアリングを進め、2017年夏ごろをめどに新たな分析手法の方向性を取りまとめて、消費者庁などに導入検討を提言する。

障がい者スポーツを体験 有明であす パネル討論も 東京新聞 2016年12月17日

パラリンピック競技の体験会やアスリートによるパネルディスカッションなどのイベント「障がい者スポーツチャレンジ2016 in KOTO」が18日午後1～5時半、江東区有明スポーツセンター(有明2)で開かれる。参加無料。

体験会は、同1時15分からボッチャ、同3時45分からブラインドサッカー。希望者は各自で上履きを持参する。

パネルディスカッションには、今夏のリオデジャネイロ・パラリンピックでボッチャ団体銀メダルの広瀬隆喜(たかゆき)選手と、パワーリフティング男子49キロ級5位の三浦浩選手、北京、ロンドン両五輪に出場した新体操の田中琴乃選手が参加。

有明にキャンパスのある武蔵野大学のスポーツマネジメントゼミが主催。区健康スポーツ公社共催で、2020年東京パラリンピックを契機とした共生社会の実現を目指す取り組み。

ゼミの指導教員上村智士郎(ちしお)さんは「障害者スポーツの普及や参加者との触れ合いを通して、みなさんと一緒に目標に近づけたら」と参加を呼びかける。問い合わせは、有明スポーツセンター＝電03(3528)0191＝へ。(北爪三記)



「共」今年の漢字 黒岩知事、共生社会実現へ決意

東京新聞 2016年12月17日 神奈川

「共」の文字を書いた色紙を掲げる黒岩知事＝県庁で

今年の漢字は「共」。黒岩祐治知事は十六日の定例記者会見で、今年一年を象徴する一字として自ら「共」と書いた色紙を掲げ、共生社会実現に向けた決意を新たに示した。

黒岩知事はこの字を選んだ理由に、相模原市の県立知的障害者施設「津久井やまゆり園」での殺傷事件を受けて、県が『ともに生きる社会かながわ憲章』を策定したことを挙げた。「共に生きる社会にまい進していくと確認した」と話した。県が力を入れているパラスポーツ(障害者スポーツ)や男女共同参画の推進なども「共」に

取り組むものとして例示した。

一方、統合型リゾート施設(IR)整備推進法(カジノ解禁法)成立を受け、横浜市が

誘致に意欲を示していることに、「にぎわいの創出、経済効果がある。市が手を挙げたら全面的に支援したい」と共同歩調をとる考えを述べた。

カジノ解禁には、ギャンブル依存症患者の増加や治安の悪化などに懸念が強い。知事は「国会で議論が尽くされたとは言えない。国民が納得できる制度にしてもらいたい」と注文をつけたが、「依存症対策などは克服できる課題だと思う」と言明し、横浜市とともに積極的な姿勢を示した。（原昌志）

採れ立て自慢「田んぼかふえ」障害者と交流

河北新報 2016年12月17日

ランチセットを配膳する大友さん（左）と吉田さん



仙台市太白区四郎丸に、地元産の野菜や米を提供するランチレストラン「田んぼかふえソレイユ」がオープンした。敷地内で障害者の小規模作業所を運営するNPO法人「フルハウス」が、地域交流の場としてつくった。3日のオープン以降、じわじわと利用が広がり交流が生まれている。

ソレイユは名取市境の仙台市南端の住宅地にある。窓から水田を望み、そこで採れた米と自家栽培の新鮮な野菜が売りだ。ランチセットにも季節の野菜を生かした小鉢が付く。

接客は障害のある大友さん（20）ら4人が担当する。吉田潤さん（22）は「最初は緊張したが、『おいしかった』と言われてうれしかった」と話す。

カレーランチを注文した近くの主婦武田艶子さん（75）は「街中のような雰囲気でおしゃれ。友人を誘ってまた来たい」と喜んだ。

フルハウスは2002年に弁当の宅配を始め、1日約150食を販売している。弁当メニューで人気のキーマカレーは、ソレイユでも提供する。

菅井明里施設長は「レストランで音楽会などのイベントを開き、多くの人々でにぎわう場所にしたい」と意気込む。

営業時間は午前11時～午後2時。定休日は日曜、祝日。カレー、魚、肉の各ランチセットが700円、焼きおにぎりのみそ汁セットが380円。弁当や総菜も販売する。連絡先はソレイユ022（241）1046。

音を視覚化、新たな世界創作 ろうのダンスアーティスト・南村千里「ノイズの海」

産経新聞 2016年12月17日

南村千里

「聞こえない側から見た“音の世界”を一生のテーマにしたい」生後7カ月で聴覚を失った、ロンドンを拠点に活躍するダンスアーティストの南村千里（46）。18日まで、あうるすぽっと（東京都豊島区）で新作「ノイズの海」の振り付けを担い、ろう者2人を含む日本人パフォーマーと新たな音の世界を創作している。

リオデジャネイロ五輪閉会式で、東京五輪引き継ぎ式の映像を手掛けたライゾマティクスリサーチも参加。「音を視覚化した」新表現が生まれそうだ。

日本画を学んでいた大学時代、来日した英国人ダンサーのワークショップに参加し、体を使うアートに開眼。英留学を経て、車椅子ダンサーを擁する世界的英ダンス・カンパニー「カンドゥーコ」唯一の日本人ダンサーとして活躍した。

2012年のロンドン・パラリンピック開会式では、足のない人らと4メートルの高さ



のポールの先端で空中演技を披露。「障害者自身がリードし、進化する姿をアピールしたことで、障害のない人も私たちが新たな価値観や視点を得た」。共同作業が英国で特別視をなくす契機となったことを実感。「母国でも」の思いを込める。(電) 03・5391・0516。(飯塚友子)

品川区が五輪グッズを区役所初の販売 公式ピンバッジなど6品

産経新聞 2016年12月17日

■障害者を雇用「Yショップふれあい売店」 「パラリンピックにも関心を」

東京五輪・パラリンピック公式のピンバッジなどのオリジナルグッズが、品川区役所内で販売されている。区によると、23区の庁舎で公式グッズが販売されるのは初めて。品川区内では五輪でビーチバレーとホッケーが開催される予定となっており、グッズ販売で五輪に向け開催機運が高まりそうだ。

販売するのは、区役所第2庁舎のコンビニエンスストア「Yショップふれあい売店」。商品は東京五輪エンブレムのピンバッジ(税別600円)▽ネックストラップ(同1200円)▽日本オリンピック委員会(JOC)エンブレムのピンバッジ(同600円)。

それぞれのグッズのパラリンピック版も販売され現在は計6品だが、好評のため一部は品切れの場合も。ラインアップは順次増やしていく予定という。

Yショップふれあい売店は平成26年5月、庁舎内にオープンしたコンビニ。社会福祉法人品川区社会福祉協議会が運営し、障害者の雇用の場としても活用されている。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は6月、公式オリジナル商品の販売を開始し、都は庁舎内の書店などで販売している。同組織委員会が都を通じて9月末、都内各自治体に販売推進協力を要請。品川区は、23区でいち早く庁舎内での販売に取り組んだ。

区担当者はYショップふれあい売店について、「障害者の雇用の場でもあるので、パラリンピックへの関心も高めてほしい」と強調。公式グッズを購入した30代の女性は「公式グッズが欲しかったけれど、どこで売っているのかよく分からなかった。これからは区役所内で買える」と話していた。

営業は平日午前8時～午後4時。土、日、祝日は休業。

絵画や陶芸、工芸 障害者の力作約400点 静岡

静岡新聞 2016年12月17日

個性豊かな作品が並ぶ愛護ギャラリー展＝15日、静岡市駿河区のグランシップ

静岡県知的障害者福祉協会主催の「第25回愛護ギャラリー展」が15日、静岡市駿河区のグランシップで始まった。19日まで。

県内の知的障害者施設など195カ所から絵画、陶芸、工芸の3部門に約400点が集まった。自分が住むまちや将来の夢を描いた絵画、段ボールを使った五重の塔、陶器で作上げた潜水艦など個性豊かな作品を展示している。



宝塚北高生、障害者施設を訪問 ダンスや歌で交流

神戸新聞 2016年12月17日

障害がある人にクリスマス気分を味わってもらおうと、兵庫県立宝塚北高校の生徒は16日、宝塚市玉瀬の障害者支援施設「希望の家グリーンホーム」でオリジナルミュージカルを披露した。施設の利用者約100人が生徒のダンスや歌を見て、一緒に体を動かした

がら盛り上がった。

施設の利用者と一緒に歌を歌う宝塚北高校の生徒たち＝宝塚市玉瀬

同高演劇科は1994年から、2年生が同ホームと交流を続ける。今年は36人が参加。ミュージカルを作り、練習を重ねてきた。

生徒らはサンタクロースやネコなどの衣装をまとうて登場。音楽に合わせて軽快なダンスと歌を披露した。クリスマスにちなんだ大喜利も開催。「どんなサンタが来たらいや？」という質問に、施設の利用者が「太って煙突に入れなくなったサンタ」「足がくさいサンタ」などと答え、会場は笑いに包まれた。

サンタ役を演じた男子生徒（17）は「楽しめた。利用者さんの笑顔を見られてよかった」と満足そうだった。（山脇未菜見）



笑顔つながる手作りツリー クリスマスの集い 大阪日日新聞 2016年12月17日

大阪市長居障がい者スポーツセンターの利用者や地域住民らが集まって冬の日を楽しむ「クリスマスの集い～笑顔がつながるクリスマス～」が東住吉区長居公園の同センターで開かれた。

同センターは、障害者がスポーツを楽しむために作られた国内初の施設で、卓球場やボウリング場を併設。催しは交流とレクリエーションの場、日常活動の発表の場として毎年開かれている。

来場者が手作りで飾り付けをしたクリスマスツリー

4日は約2メートルのクリスマスツリーにアニメキャラクターのイラストやメッセージを書き込んだワッペンを飾り付けたり、三角帽のワークショップがあった。ほかにも市内の福祉施設によるさをり織り製品や古着のバザー、ダンスの発表などが行われた。

府内の特別支援学校に通う女性（16）＝羽曳野市＝は「(ピン球の)雪だるま作りと帽子の飾り付けをした。人がたくさんいて楽しい気持ち」と喜んでいた。



やすらぎ荘支援展に出品 23日から天神で開催【福岡県】

西日本新聞 2016年12月17日



金澤翔子さんの作品「翔」

太田浩介さんの作品「パッションの人物」

ダウン症の書家金澤翔子さん（31）＝東京＝と、自閉症の画家太田浩介さん（35）＝太宰府市＝が、福岡市・天神のエルガーホールで23～25日



に開かれる「やすらぎ荘支援第40回チャリテ

イー作品即売展」(西日本新聞民生事業団など主催)に初めて作品を寄せた。販売の益金が筑前町の在宅心身障害児者療育訓練施設「やすらぎ荘」に寄付される。

同荘は、脳性まひなど心身に障害がある人たちがリハビリに取り組む施設。障害者アーティストとして活躍する2人の出品は、利用者にとっても励みにもなりそうだ。

金澤さんは昨年は太宰府天満宮で、今年は博多区の承天寺で席上揮毫(きごう)をした。その際、障害者も会場に招き、力強い作風が感銘を与えていた。今回は京友禅を使った額装で自身の名前「翔」の書を寄せた。母親の泰子さんは「翔子の作品がお役に立てれば幸いです」と話す。

太田さんの作品は明るい色調のアクリル画「パッションの人物」「ベナス」の2点。兄の信介さん(42)は「浩介はいつも無心で一生懸命描きます。それが皆さんの心に響けば何よりです」と期待する。

作品即売展には画家、陶芸家など約240人のアーティストが計約380点を出品する予定。子どものリハビリでやすらぎ荘に通っている福岡都市圏の母親は「障害者アーティスト2人の作品には勇気と明るい希望があります」と楽しみにしている。

高知市の豊永さんが2017年秋障害者ピアニストの世界大会出場



高知新聞 2016年12月16日

ピアノを弾く豊永桃子さん。生き生きと、自分らしく弾くことを心掛けている(高知市内)

「自分らしい演奏を」

自身の発達障害と向き合いながら、大好きなピアノを続ける女性がいる。高知市一ツ橋町1丁目の豊永桃子さん(27)。障害のあるピアニストによる4年に1度の「ピアノパラ」の日本代表選考会をこのほど通過。2017年秋、米国で開かれる世界大会に出場する。「自分らしい演奏を届けたい」と練習を重ねている。

桃子さんは4歳でピアノを始めた。周囲が驚くほど上達が早く、ピアノ導入教材の「バイエル」2冊をわずか3カ月で終了。母親の敦子さん(55)は「小学校のある日は4時間、ない日は10時間も練習していた」と振り返る。

コンクールにも入賞し、ピアニストになることを目指していたが、次第に友達になじまなくなった。発達障害と分かったのは中学生の時。体調を崩し、入退院を繰り返すようになった。

ピアノから遠ざかる日々が続いたが、進学した清和女子高校(南国市明見)の音楽会で演奏を依頼されたことを機に、再び鍵盤に向かうようになった。現在は、障害者の就労を支援する事業所「おしごと画楽」(高知市はりまや町3丁目)で働きながら週に1度、ピアノ教室に通っている。

今回出場が決まった「ピアノパラ」は、2005年に「ピアノパラリンピック」として横浜市で始まった。NPO法人「アンハードノート・ピアノパラ委員会」(東京)が主催し、四肢に障害のある人や知的障害のある人など、障害の区分に関係なく参加できる。

介護施設職員ら不調訴え お茶から睡眠導入剤 愛知 NHKニュース 2016年12月17日

今月、愛知県東海市のデイサービスセンターで従業員11人がお茶を飲んだあと眠気やふらつきを訴え、警察が調べたところお茶から睡眠導入剤の成分が検出されたことが捜査関係者への取材でわかりました。警察は混入された状況を詳しく調べています。

今月9日、東海市にある「大田デイサービスセンター・ルピナ」で、介護士や送迎車の

運転手などいずれも従業員の男女11人がお茶を飲んだあと、眠気やふらつきを訴えました。11人は病院で診察を受けましたが健康被害はないということです。

警察によりますと、11人はこの日の昼食の際などに従業員用の休憩室にある同じ容器に入ったお茶を飲んだということで、残ったお茶を調べたところ睡眠導入剤の成分が検出されたことが捜査関係者への取材でわかりました。

このデイサービスセンターによりますと、施設に睡眠導入剤は置いていないということです。警察はこの成分が混入された状況を詳しく調べています。

福祉車両レンタル事業に参入 神戸の保険代理業

神戸新聞 2016年12月17日

ハンドルと一体的に取り付けたアクセル。押したり引いたりして加速する＝神戸市中央区東川崎町1

保険代理業のタスク（神戸市東灘区）は、福祉車両のレンタル事業に参入する。身体障害者の運転を補助する装置を付けたコンパクトカーなどを用意し、個人や病院、ホテルなどに貸し出す。補助装置は手でブレーキ、アクセルの操作ができるのが特長。今月21日から営業を始める。（井上太郎）同社は、自動車整備会社のハバタック（兵庫県香美町）から、自動車保険事業を分社化する形で2005年に設立。大手損害保険会社の代理店業務を手掛けてきた。



来年度予算総額97・5兆円前後 社会保障増で5年連続最大

西日本新聞 2016年12月17日

政府が2017年度予算案の一般会計総額を97兆5千億円前後とする方向で最終調整に入ったことが17日、分かった。高齢化で社会保障費の増加が避けられず、当初予算としては5年連続で過去最大を更新する。低金利で国債（借金）の利払い費を抑えつつ、税収が57兆7千億円に伸びると見込み、新規国債発行額は微減の34兆4千億円と辛うじて7年続けて前年度を下回る水準とする。残された課題を19日に閣僚間で折衝し、与党とも調整した上で22日に閣議決定する。一般会計総額は16年度当初（96兆7218億円）から7千億～8千億円増える。このうち一般歳出は58兆4千億円。

子どもの医療費補助金減額、無条件で廃止へ

朝日新聞 2016年12月17日

未就学児の医療費に対する自治体による助成を促すため、厚生労働省は自治体の補助金を減らすペナルティーを2018年度から無条件で廃止する方針を固めた。ペナルティーは独自に医療費の助成をしている自治体が対象で、医療費が増えることから国民健康保険の補助金を減らしている。17日に開かれる厚労省と全国知事会などとの協議の場で表明する。自治体によっては医療費を無料化・軽減する子どもの保護者に所得制限を設けている。厚労省はそうした自治体に限ってペナルティーを廃止することも検討。医療費の抑制効果があるためだが、補助金を少子化対策に活用してもらうことを優先し、無条件とした。子どもの医療費助成を理由にペナルティーで減らした自治体向けの補助金の総額は、14年度の国費ベースで約90億円。そのうち未就学児向けは約60億円だった。厚労省はペナルティーの廃止方針を先月の社会保障審議会（厚労相の諮問機関）の部会で表明した。（生田大介）



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行